

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第254号 2017年11月7日

OCHADAI GAZETTE Autumn, 2017



豊かな未来を創る グローバル女性リーダーとして

CONTENTS

TOPICS

学長からのメッセージ 1-2
豊かな未来を創るグローバル女性リーダーとして
～ 皆さんへの期待 ～

学生のアクティビティ 3-4

教員紹介 5
● 石丸 径一郎先生
(基幹研究院人間科学系准教授)

卒業生紹介 6
● 横尾 咲子さん
(文教育学部芸術・表現行動学科卒業)

附属学校園からのお知らせ 7-8

キャンパス点描 9-10

- 学部オープンキャンパス2017を開催しました
- 正門門扉復元完成式典が挙行されました
- お茶の水女子大学と国立精神・神経医療研究センターが「連携・協力に関する協定」を締結しました
- AO入試「新フンボルト入試」プレゼミナールを開催しました
- 仏 ストラスブール大学との大学間協定15周年を記念してワークショップを開催しました



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

豊かな未来を創るグローバル女性リーダーとして ～ 皆さんへの期待 ～

学長からのメッセージ

お茶の水女子大学では、ボーダーレス化が進む社会で活躍する優れた人材の育成に対する社会からの期待に応えて、世界的な課題の解決に向けて社会を牽引する「グローバル女性リーダー」を育てるために、多様な教育と研究を推進しています。

皆さんもご存知のように、本学は、女性のための官立の日本初の高等教育機関「東京女子師範学校」として1875年に設立され、142年の歴史を紡いできました。その中で、様々な分野における優れた女性人材を輩出し、多くの卒業生が学術・研究、教育、産業、行政の場で、女性リーダーとして活躍して来ました。現在も、志の高い優秀な学生達が将来の女性リーダーを目指して勉学に励んでいます。

今、私たちを取り巻く社会環境は、年々厳しくなっています。国内だけでも、急速な少子高齢化とそれに伴う社会的課題、東日本大震災からの復興、厳しい経済状況など、課題が山積しており、世界に目を向ければ、争いが絶えない国際社会で日本が果たすべき役割や、環境・エネルギー問題など、解決を目指すべき課題は数え切れないほどです。でも、それらの課題が多いほど、また解決が困難と思われるほど、「学ぶ」ことの意味は大きいと思われれます。そんな状況下で、若い皆さんが「グローバルリーダー」として育ち、世界を牽引することへの期待は、益々大きくなってきています。

では、「グローバルリーダー」には、どんな資質・能力が必要なのでしょう。コミュニケーション力、異文化適応力、論理的思考力、公正な判断力、リーダーシップをとれる能力、

首尾一貫性、透明性など、様々な資質・能力が必要であると言えますが、何よりも重要なのは、自分とは異なる価値観や考え方をを持った人々と深く理解しあい、異なる生き方をしている人たちと互いに切磋琢磨しながら自らを成長させていく意志と力です。

そして、人々の価値観や生活環境が大きく変動する国際社会で、それぞれが属するグループ、組織、共同体などが、どこへ向かうべきかを判断し、信念に基づいて実践できることが、リーダーにとって必要な条件であろうと思われれます。

若い皆さんがそれらの資質・能力をより向上させるために、本学では、様々なプログラムを用意して、皆さんが社会的、国際的な体験活動に参加できる機会を充実させ、異なる文化を持つ人々との対話と体験を取り入れた学びの機会を提供しています。

「21世紀型文理融合リベラルアーツ」、「複数プログラム選択履修制度」、「実践的なグローバル教育」などは、広く確かな知識と豊かな見識、そして他者を尊重する寛容さを身につけたグローバル女性リーダーへの道を示すための基本的なプログラムです。こうしたプログラムを履修することで、皆さんが、専門以外の事柄にも目を開いて、新しい知識や異なったものの方や思考法を身につけることが期待されます。

また、2015年度から、「グローバル女性リーダー育成研究機構」を新設し、その下に、リーダーシップ養成を目的とした「グローバルリーダーシップ研究所」と、社会における多様性を推進するための「ジェンダー研究所」を設置しました。「グローバルリーダーシップ研究所」では、国際的な動向に対応する「女性リーダーシップ論」などのカリキュラム開発を進めて新たな科目群を整備すると共に、学生を海外に派遣するプログラムの改善と整備を図ります。また、国の内外から優れた教育者・研究者を招いてリーダーシップに関するシンポジウム

や講演会を開催するなど、さまざまな事業を推進しています。さらに、社会人女性を対象として、そのキャリアアップを後押しし、多様な場でリーダーとして活躍するための生涯教育講座も開講しています。

なお、お茶の水女子大学におけるグローバル女性リーダー育成は、今に始まったことではありません。実は、1875年の創

● Afghanistan

 Ochanomizu University

● Thailand (Siam)



1907年 シャム国からの留学生の教育記念写真

立当初から、国際的な感覚を持って国の内外で活躍する女性たちを育てることをミッションとして掲げ、教育・研究を推進してきました。

女性が海外に出ることだけでも困難な時代から、本学の卒業生は国際的に活躍してきました。「お茶の水女子大学論」など、様々な機会を捉えて皆さんにもお話して来ましたが、わが国の女性科学者として初めて米国に留学して研鑽を重ね、初の女性理学博士となった生物学者の保井コノさんや、初の帝國大学生となり、また英国に留学して理学博士となった化学者の黒田チカさん、第2次世界大戦前後の困難な時期にフランスに渡ってジョリオ＝キュリー夫妻の許で国際的な女性物理学者として活躍し、日仏の研究者交流に尽力した湯浅年子さん、そして英国に留学した後にシャム国（現・タイ王国）の女子教育推進に貢献した教育学者・心理学者であった安井てつさんなどを先駆けとして、現在に至るまでに多くの教育者や研究者が育て、国境を越えて活躍しています。これらの方々はいずれも本学で教鞭を執って、女子の高等教育に貢献しました。安井てつさんはその後、新渡戸稲造の要請を受けて、東京女子大学の第2代学長としても活躍されました。

素晴らしい先輩の活躍は、後に続く私たちの大きな希望となっています。

留学生の受け入れは、古くは1903年のシャム国からの4名の女子の受け入れに端を発し、国境を越えた研究と教育文化の創造を目指してきました（写真参照）。

そして2004年の国立大学法人化に向けて、当時の本田和子学長（本学初の女性学長）のリーダーシップの下で、2002年から、『学ぶ意欲のある全ての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する』との標語を掲げ、世界中の全ての女性たちの夢の実現を支援する活動を開始しました。学びたくても学ぶ機会のない開発途上国の女性たちをも含めて、国籍や年齢を問わず女性たちの成長と資質・能力の開発を支援し、また幼児教育の振興を図るために、アフガニスタンからの留学生の受け入れや、アフガニスタンや西アフリカ諸国からの女

性教員と学校運営・管理者のための研修などを行って来ました。今年、アフガニスタン女子教育支援開始から15年を迎えますので、11月29日の創立記念日に15周年記念行事を予定しています。皆さんも是非ご参加ください。

アフガニスタン女子教育支援は、本田元学長から津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学の五つの女子大学に呼びかけてコンソーシアムを形成し、2002年2月に「アフガニスタン女子教育のための女性教員研修プログラム策定検討委員会」を設立して、互いに連携してアフガニスタンの女子教育を支援して来たものです。その中で、国際協力機構（JICA）の支援を得て2002年度から2012年度まで実施された教員のための研修には、150名以上のアフガニスタン人教員が参加しました。2003年からは、指導的女性研究者・高等教育教員の育成に資するために、国費留学生の大学院への受入れを開始しました。本学では2003年度に「開発途上国女子教育協力センター」（2008年にグローバル協力センターに改組）を設立してそれらの事業に当たってきましたが、2015年度末までに、博士・修士7名を輩出することができ、現在も4名が学んでいます。

これらは、開発途上国において女性リーダーとして活躍する人材を育てると共に、真の意味での学園のグローバル化を目指す活動だと言えます。

現在、本学では、世界に向けてより大きな窓を開き、様々な国からの留学生を受け入れ、また、日本で生まれ育った学生達の様々な国への留学を後押ししています。

これまでに、本学の学部と大学院は、世界57カ国もの国々からの留学生を迎えています。今年5月現在で23カ国211名の留学生が在籍しており、学生・院生や研究者の交流協定を結んでいる大学も、現在25の国と地域、71大学に上っています。

皆さんには、是非、豊かな感受性と柔軟な考え方ができる学生のうちに、多様な国々の人々と出会って、交流を深めて頂きたいと思います。それによって、「世界の智」を学び、グローバル化が進む時代に生きるための大きな力を身に付けて頂きたいと願っています。

お茶の水女子大学長 室伏 きみ子

学生のアクティビティ

TEA PARTY KI IN wonderland

11月11日、12日に開催されるお茶の水女子大学学園祭「^{きいんさい}徽音祭」
 徽音祭実行委員の三人と一緒に お茶してきました！！



山 企画部局長
山口 友理さん
 文教育学部 言語文化学科
 日本語・日本文学コース 3年

花 副委員長
花岡 瑞月さん
 文教育学部 言語文化学科
 グローバル文化学環 3年

川 委員長
川上 紗季さん
 理学部 数学科 3年

仕事内容をおしえてください

川 全体を見ることがメインです。部局の進捗状況を把握し、臨機応変に対応しています。また、実行委員みんなが仲良くなるように心がけています！

花 徽音祭当日の緊急事態の対応とその防止が主な仕事です。

山 企画の取りまとめをしています。また、今年から留学生や訪日外国人が参加しやすい環境作りに取り組んでいます。

実行委員をはじめたきっかけは・・・？

川 友達が増えることを期待したのがはじめたきっかけです。

花 高校生の頃に徽音祭に来て以来実行委員に憧れていました！ はっぴが可愛いのも決め手のひとつです。

山 高校の文化祭での生徒全員が一体となって盛り上がる雰囲気が好きだったので、大学でも続けたいという思いではじめました。



続けてきた理由は？

川 徽音祭の雰囲気はわたしとあって、いたし先輩も温かく、終わったあとに「次はこうしたい」と来年への改善点を見つけたため続けています。

花 先輩への憧れはもちろん、終わったあとの「(実行委員を) やってよかった！」という気持ちが好きで続けています。

山 私は先輩への憧れが大きいです。また、終わった後の達成感が続くモチベーションになっています。

やりがいを感じたことは？

川 去年の学園祭グランプリではMVPを受賞し、徽音祭での1個1個の積み重ねを外の方から認めてもらったことを実感しました。鳥肌が立ちました！

花 お客さんや参加団体の学生など徽音祭に関わっている人が喜ぶ姿を近くで見られたことがやりがいにつながりました！

山 自分の企画の来場者数を過去最高にすることを目標にし、広報に力を入れるなどの工夫をして最終的に目標を達成できたことです！

大変だったことは？

川 昨年は電力の取りまとめに苦戦しました。参加団体や学校の方とやりとりをして安全な電力の使用を目指しました。

花 水コンなどのステージを担当しており、企業とのやりとりが多く大変でした。当日は「ステージうまくいかな」という不安もありました。

山 強いといえば、大勢の人と頻りに連絡を取り合っていたので、そこが忙しかったところかなと思います。

頑張っていることは？

川 動画の再生回数を増やすことを頑張っています！ 学園祭グランプリや徽音祭を色んな人に知ってもらうきっかけにもなりますので！

花 きいちゃんがお茶大に迷い込むアニメーションはとてもかわいいです！

山 ぜひご覧ください♪

来場者へひとこと

川 お茶大だからこそ学園祭にします！ いろんな企画があるのでどなたがいらしても楽しめます♪
 ぜひ、不思議の国に迷い込みにきてください♪

昨年度は学園祭グランプリの **MVP** に選ばれました!



学園祭グランプリ

きいんさい 検索



<https://m.youtube.com/watch?v=2rd2lo3who0>

新企画

新・微音座の歌姫

2015年の企画『微音座の歌姫』が復活! 5人のファイナリストの美声が響き渡ります。

リアル脱出ゲーム ~お茶猫の救出~

「お茶猫がいなくなった?!」
頭をフル回転してお茶猫を探し出せ!!!

テーマの由来

TEA PARTY

KI IN wonderland

「微音(きいちゃん)のワンダーランド」
を意味しています。たくさんの人、たくさんものが集まって、明るくて、かわいらしくて、華やかで、お茶大ならではの学園祭になりますように...という想いを込めました。

微音祭オリジナルグッズ

昨年、大人気だった微音祭ファイル
3種類に増えてかえってきました!



おすすめ企画 水コン

外見も内面も審査し、『お茶大生があこがれるお茶大生 No.1』を決定する目玉企画です。

お茶パラ

外見も内面も Handsome なお茶大生 No.1 を決定します! かわい自己PRは見逃しません!



きいちゃんについて



お茶の葉 + 水

校章のカタチのスカート

昨年学園祭キャラクターグランプリ初登場にして1位を獲得したきいちゃん
人間でいうと大学生くらい
学長になることを夢見ている

今年も投票
お願いします!

第5回全国学園祭マスコット総選挙

http://c.student.mynavi.jp/cpf/stu_007/photos/view/page:1

私たちは
広報アテンダントです!

... ::* 編集後記 *::... ::*::

今回の取材で、実行委員の3人も微音祭をつくるにあたり、「お客さんに楽しんでもらいたい」という気持ちが大変大きかったです。実行委員として微音祭に全力を注ぎこむ姿は本当に素敵でかっこよかったです!

ちなみに、私たちは受験生向けにお茶大の情報発信をしています。大学見学会やツイッター更新をしていますので、ホームページやツイッター (@ochadai News) もチェックしてみてください!

文責: 理学部物理学科 4年 金子 紗梨
文教育学部人間社会科学科 2年 鈴木 悠加

学生のアクティビティ

教員紹介

今回は、今年度着任された基幹研究院人間科学系准教授の石丸 徑一郎先生をご紹介します。石丸先生の現在のご所属は、大学院では人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻発達臨床心理学コース、学部では生活科学部人間生活学科発達臨床心理学講座です。



性や性役割の多様性から 価値を生み出す

Ishimaru Keiichiro
石丸 徑一郎

Q まず始めにご出身、ご経歴などについて教えてください。

里帰り出産のため横浜市で生まれましたが、0歳から高校卒業まで長崎市で育ちました。東京大学文科3類、教育学部教育心理学コースを卒業、その後、東京大学大学院の修士課程・博士課程では教育心理学・臨床心理学コースに在籍し、修了しました。博士号取得後は、国立精神・神経センター(当時)の研究者として、トラウマ・PTSD(post-traumatic stress disorder; 心的外傷後ストレス障害)の研究室に3年間在籍しました。そして、学術振興会特別研究員として東京大学に2年間在籍し、その後、出身の東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コースの講師として着任し、5年間、研究・教育・臨床を行っていました。東大の方は任期満了となり、今年4月から本学に着任しました。資格としては大学院生の時に臨床心理士を取得、また最近保育士も取得しました。

Q 先生のご専門は何ですか？

LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー)と呼ばれるような性的マイノリティの人々について研究と臨床をしています。大学院生の時は、同性愛・両性愛である人たちの他者から受容されている感覚と自尊感情について研究していました。現在は、性同一性障害をもつ人たちの性別違和の強さを測定するツールを作ったり、LGBTの人々のQOL(quality of life; 生活の質)向上に役立つような認知行動療法的アプローチの開発に関心があります。また、大学で働いているので、大学とLGBTのテーマにも関心があり、LGBTインクルーシブな大学について、また大学の学生・教職員・卒業生によるLGBTコミュニティの形成や役割について検討したいと考えています。LGBTのテーマだけでなく、人間の性や性別に

まつわることに広く関心があります。例えば性犯罪の加害者側、被害者側の両方に関して、それからセックスレスなど性機能不全に関するセックス・セラピーに関して、臨床で関わったことがあります。その他、性感染症・HIV、カップルや集団における性役割行動や分担、性に関する規範意識、配偶者選択行動の進化生物学的側面、妊娠・出産・月経随伴症状・避妊・中絶・不妊・生殖医療などにまつわる心理的諸問題に関心を持っています。

Q なぜそのような研究をするようになったのか教えてください。

もともとは、家事にあまり関心や適性があると思えない母親が、女だからという理由で専業主婦をやっていることに疑問を持ち、学校で男子グループのノリについて行きづらい感覚があったりして、性別や性役割に興味を持ちました。卒業論文では、男性は外で仕事、女性は家で家事育児という性別役割分業に対して賛成・反対という態度の個人差がどのように生じるのかを大学生を対象に調べました。その結果、母親の就労形態の違いや、出身高校が共学か別学かによって態度に差が見られました。その頃にはLGBTという言葉は日本では使われていませんでしたが、知られざる世界で存在している人々がかなりたくさんいることを知り、研究するべきだろうと思い、大学院からはこれをテーマにしました。人間の性に関するテーマは、心理学だけでなく、多くの他の学問領域や、人間のあらゆる生活や活動に関わってくるので、本当に面白いと思っています。

Q 女子大学の存在意義を指摘する声も聞かれますが、先生は女子大学についてどういうお考えをお持ちですか？

身体は男性だが女性アイデンティティを持ち、現

在性別移行中の人の入学をどうするかなど、少数の個別ケースについては対応が必要になってくると思います。一方で、日本は男女賃金格差が深刻で、ジェンダーギャップ指数が144カ国中111位(2016年)と先進国としては異例の低位にあります。女子大学として女性をエンパワーすることは、今の日本ではまだ必要だと考えています。20歳前後の年代で男女共学だと、男子から疎まれないように、過度に女らしく振る舞ったり、男子に勝たないようにしたり、リーダーシップを男子に任せたりといった行動が起きる可能性があります。女子大学であればそれが防げると思います。

Q お茶大に対してどんなイメージを持ちましたか？

着任前はお茶大に関わるものがあまりなかったのですが、知っている数人の卒業生から、真面目で協調性が高いイメージを持っていました。着任後も、イメージは大きくは変わりませんが、授業では問いかけても反応は薄いのですが、コメントシートを書いてもらうとよく聞いていることがわかります。前任校の東大と比べると、独創的で型破りな人が少なかったり、批判精神が薄かったりするように思いますが、よく言えば素直で協調性が高いのだと思います。

Q お茶大生へ向けてのメッセージをお願いします。

自分の感覚を大切にして、周囲に合わせすぎずに、自分の道を見つけていかれたらよいと思います。そのためには、世の中のいろんなことや人々や考え方に触れることが大事だと思います。学内の先生たちはもちろん、学外でもいろいろな機会を見つけて出かけていくのがおすすめです。お茶大は小規模な大学なので、先生たちからお話を聞きやすいと思います。また都心のよい場所に立地しているので、東京で開催される講演会、シンポジウム、イベントなど多くの機会に参加することが可能です。将来役に立つかどうかにとらわれず、まじめなものからやわらかいものまで、驚くほど多様な世の中をぜひ体験的に学び取ってください。

文責：基幹研究院自然科学系教授 赤松 利恵

卒業生紹介

メキシコと日本の文化の架け橋に！

～ダンスと紙芝居のスペシャリストとして～



Yokoo Sakiko
横尾 咲子

メキシコ文化庁 契約アーティスト
NPO法人手をつなぐメキシコと日本 理事長

2002年 お茶の水女子大学文教育学部芸術・表現行動学科 卒業
2002年 同大学院人間文化研究科博士前期課程入学
2003年12月～2005年12月 海外青年協力隊員としてメキシコに赴任
2006年9月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程修了
2006年10月～2007年3月 お茶の水女子大学にアカデミック・アシスタントとして勤務
2007年4月～2011年 GAコンサルタンツ株式会社に勤務
2011年～ メキシコへ移住
現在、メキシコ文化庁アーティストとしてメキシコ各地で乳幼児を対象とする表現活動に従事。
NPO法人手をつなぐメキシコと日本 理事長。3児の母。

山形からお茶大、そしてメキシコへ

山形県東根市出身で、元々、舞踊、特に生活に根ざした民俗舞踊に興味があり、また新聞でみたダンスセラピーの記事に興味をもったことから、舞踊教育学コースへ進学しました。大学院進学後は、ダンスセラピーに関する文献を読む日々でしたが、理論に偏る研究論文に疑問を感じ、実践の場を求めていた頃、メキシコで、統合教育現場における体育教員の枠があることを知り応募しました。2年間、メキシコの小学校5校を巡回し、身体表現教育に従事しました。また赴任中に、メキシコ教育省に勤めていた現在の夫と出会いました。大学院を休学して協力隊に参加していたため、任務終了後、インクルーシブ教育現場における表現活動の教育的意義というテーマで修士論文を提出しました。

ベンチャー企業に就職するも、再び夫の母国であるメキシコへ家族で移住

本学大学院修了後、ベトナムを中心としたビジネスコンサルティングを手がける企業に総合職として就職しました。その頃、日本に留学してきた現在の夫と結婚しました。長女を出産後、第2子妊娠をきっかけにメキシコ移住

を考え始め、2011年、国際交流基金助成による「紙芝居ワークショップ」企画とともに、夫の母国へ家族4人で移住しました。

こちらではメキシコ文化庁の契約アーティストとして、乳幼児を主な対象にダンスや紙芝居の活動を各地で行っています。また「NPO法人手をつなぐメキシコと日本」を立ち上げ、日本の舞台芸術や、合気道、美術、食文化等をメキシコに紹介する活動を精力的に行っています。故郷山形の山伏とウィチョール族の祈禱師による、日墨シャーマニズム交流企画など、独自性の高い事業を目指しています。来年3月には、地元山形県東根市の公益複合文化施設まなびあテラスで「メキシカンひなまつり」を開催します。在住するミチョアカン州の女性手工芸職人たちに、日本の「ひな祭り」にインスピレーションを受けたオリジナル作品を創作してもらい、その展示を行う予定です。また、同施設にて中高生を公募し、戦争調査から紙芝居を創作・発表するワークショップ「平和紙芝居プロジェクト」も準備中です。

メキシコ在住の立場から考える日本とメキシコ、それぞれの良さ

日本は四季の変化があり、そうした自然が育む日本伝統の素晴らしさを離れてみて尚

更実感します。一方で、そうした伝統芸能に、積極的に現代的な感覚を取り入れるところも、日本文化の素晴らしさだと思います。一方、メキシコは日本に比べると働きながら女性が子育てしやすい国と感じます。また、メキシコでは家族の繋がりが強く、人々がたくましく暮らし、幸福感が強い国だと感じます。

恩師の言葉から考えるお茶大生へのメッセージ

高校時代の2人の恩師の言葉が印象に残っています。世界史の先生には、「自分の足で歩いて、世界をつぶさに見なさい」と言われ、大学時代はバックパッカーでアジアや中東を歩き回り、また卒業論文のフィールドワークのためにエジプトまで足を運びました。違って面白い、違いを認め合って世界はもっと仲良くなれるはずだ、と肌で感じたことが、最大の旅の収穫でした。数学の恩師には、「数十年後、今日本にある職業の半分はなくなるだろうから、自分を見極め、手に職をもちなさい」と言われました。手に職があれば、子どもを産み育てながらでも自分の仕事を続け、深めていくことができます。実際、今メキシコで、「身体表現」と「紙芝居」という私だけの芸(スキル)が自分の生活を支えています。お茶大生にも、情報や周りに流されずに物事を見ることで、自分自身を探索し、自分にしかできないスキルを身につけることを大切にしてほしいです。

文責：基幹研究院人文科学系教授
水村 真由美

コラム

今年は、メキシコに初めて日本人が渡った榎本植民団の入植から120周年、来年は日墨修好通商条約締結から130周年という記念の年となる。その年に、日本のコンテンポラリーダンスをメキシコに招聘し、自らが山形県で文化イベントを行うという横尾さん。これからもアートで日本とメキシコがしっかり繋がる手としての美しい活躍が期待される。NPO法人手をつなぐメキシコと日本 <http://teotsunagu.tumblr.com/>

附属学校園からのお知らせ

附属小学校便り



サークル対話の様子

お茶小の低学年教育

附属小学校では、就学前教育からのボトムアップを重視した低学年教育を行っています。具体的には、1年生の子どもたちはサークル対話・計画表に基づく個別の学習・プロジェクト型の学習を中心に、学校生活を送っています。今回は、1学期の朝とサークル対話での子どもたちの様子について紹介します。

○主体的に学ぶ教室を目指して

7時50分。一番に来た子どもの「おはようございます!」の声から、一年生の教室が動き始めます。半分くらいの子が登校する頃になると、自分の荷物を整頓し終えた子どもたちが、誰ともなく、教室の隅に置かれた四人掛けのベンチを運び出し、全員が輪になって座れるように並べます。

8時10分。輪になったベンチに子どもたちが少しずつ集まり、思い思いの場所に陣取ります。後から来た子が座る場所を見つけられないと、座る場所を少しずらして、「ここ空いてるよ!」「おいで!」と声をかけ合い、一つの輪ができあがります。日直が、全員座ったのを見届けると、朝の挨拶と健康観察です。健康観察は、両隣に座る子に「元気?」と声を掛け合います。「○○さんは、少しおなか痛いです」「○×くんは、朝ご飯食べ忘れて、おなか空いたって」隣の子から聞

いた体の調子が、皆の前で話されます。ここまでをすべて、子どもたちが自分たちで進めています。このように、登校から下校までの生活を自分たちで進めることから始まり、主体的に学級・学年にかかわる意識を育てています。

○安全・安心な場をつくり、 聴き合う関係性を育てる

健康観察の後は、サークル対話です。サークル対話は、生活の中で発見・経験したことなど、みんなに伝えたいことがある子が一人ずつ話します。一人の話が終わると、分からないことやもっと知りたいことを質問し、自分の思ったことや感じたことを率直に語り合い、聴き合います。一学期のある日は、自分の家で飼っているカメの話から、子どもたちのやり取りが始まりました。

「**リクガメを飼っています。お世話で、お風呂に入れたり、お野菜を食べさせたりしています。**」

こう発表すると、家で撮ってきた写真を見せながら、サークルを回ります。すると、子どもたちが写真を見ながら、口々に「かわいい!」「飼ってるんだ」などと言っています。一周し終わると、たくさん手が挙がり、質問が出されます。



ベンチの用意

附属学校園での出来事 (2017年7月~9月)

【いずみナーサリー】

7月

- 七夕
- 避難訓練(室内・地震)
- すいかわり
- いずみナーサリーの日

8月

- 避難訓練(不審者対応)
- 夏野菜収穫・調理
- 森のプール開設

9月

- 引き取り訓練
- いずみナーサリーの日

【附属幼稚園】

7月

- 誕生会・七夕
- 幼稚園説明会
- 第1学期終業式
- 5歳児有志 チャボ・畑の世話
- 夜の幼稚園園庭でセミの羽化を観察する会

8月

- ライフ×アート展参加
- 同窓会「ちぐさ会」園庭草刈りボランティア

9月

- 第2学期始業式
- 生きもの博物館「むしけんきゅうじょ」
- 学級懇談会
- 誕生会
- 避難訓練、引き取り訓練
- PTA主催 講演会、バザー「お茶の市」

【附属小学校】

7月

- 保護者会
- 情報モラル講習会(5・6年、保護者)
- 芝生補植(5・6年、保護者ボランティア)
- 防犯教室
- 終業式

8月

- 登校日(4・5・6年)
- 林間学校(4・5・6年)

9月

- 始業式
- 不審者対応訓練
- 保護者会
- たてわり給食
- 開校139周年
- 栄養教育実習
- 通学班別会
- 校外学習(1年)
- 学校宿泊(3年)

【附属中学校】

7月

- 第2回学カテスト(3年)
- 保護者会
- お茶の子バザー
- 志賀高原林間学校(2年)
- 夏休み開始

8月

- 夏休み終了
- 第3回学カテスト(3年)

9月

- 郊外園(2年)
- 自主研究発表会
- 保護者参観日
- 生徒祭

【附属高校】

7月

- 台湾科学才能フォーラム(1・2年6名)
- SNSについての研修(1年)
- 農場実習(ジャガイモの収穫:2年)
- 学カテスト(1・2年)
- 保護者会(1~3年)
- お茶大英語サマープログラム(1・2年生22名)
- 終業式

8月

- 東工大サマーチャレンジ(3年生8名)
- イオン アジアユースリーダーズ(2年生5名)
- スーパーカミオカンデ & iPS細胞研究所見学(3年生18名)
- 理数1日体験授業(中学生対象)
- 学カテスト(3年)

9月

- 始業式
- 第II期教育実習
- 文化祭
- 第2回学校説明会
- 進路講演会(2年)

「リクガメは何才ですか？」

「わかりません。
生まれる前から飼っていたから。」

「力は強いですか？」

「メスの方が、強い。」

「カメの名前は？」

「メスはひなのちゃん。
オスは、ココナッツ。」

「そのカメは、どういふ野菜を
食べますか？」

「ほうれん草、キャベツは食べれない。
トマト、にんじん、小松菜、チンゲン
サイ。フルーツは食べれる。」

「オスとメスは、どうやって
見分けるんですか？」

「メスは大きい。オスは小さい。」

「他にも何か飼っていますか？」

「飼ってない。」

「お世話は楽しいですか？」

「楽しいです。」

このように、サークル対話では、自分の思ったことや感じたことを素直に出し、それを受けとめることができる関係性が育まれていきます。わたしを受け入れてくれる場所があること、肌の触れあうような距離感で語り合うことを通して、子どもたち一人ひとりが、安心感をもつことにつながります。

サークル対話での教師の役割は、対話の場が子どもたちにとって安全・安心できる場になるように心を砕き、対話の中に表れる活動や学びの芽を広げる手助けをし、意味づけることです。こうした日々の活動から、教室が安全・安心な場であることを子どもたちが感じ、自由に自分の考えや問いを出すことができることを大切にしながら学校生活をつくっています。



計画を立てる

附属学校園からのお知らせ

キャンパス点描

学部オープンキャンパス 2017 を開催しました

2017年7月15日(土)～17日(月・祝)の3日間、学部オープンキャンパスを開催しました。

連日の猛暑の中、7,000名を超える受験生や保護者の方々に参加いただきました。

本学のオープンキャンパスはこれまで、初めに大学講堂において全体説明会を実施していましたが、会場を移動する際の混雑を避けるための試みとして、各学科・講座・コースの説明会場を来場者の集合会場としました。

また、新しい取り組みとしてAO入試(新フンボルト入試)説明会の開催や、学生寮(お茶大SCC)の見学を催したほか、平成30年度開設予定の心理学科、子ども学コースの説明会も反響を呼び、



模擬授業の様子

予想を上回る参加がありました。

キャンパス内ではヴァーガンディ(ワインレッド)色のオリジナルTシャツを着たアシスタント学生が大活躍。どのプログラムも大盛況で、参加者との間で活発な質問があり、アシスタント学生も加わって丁寧な説明がされていました。

来年度も引き続きオープンキャンパスを実施いたします。開催時期が決まりましたら、大学ホームページでお知らせいたします。皆様のお越しをお待ちいたしております。



受付の様子



入試相談コーナーの一コマ

正門門扉復元完成式典が挙行されました

2017年9月7日(木)にお茶の水女子大学正門門扉の復元完成式典が挙行されました。

大学正門は、国道254号線(春日通り)に面し、建設後は戦時中の鉄材料の供出により門扉は外され、1955(昭和30)年3月23日に丸パイプの鋼製門扉に取替えられました。

竣工時より門扉は一度取替えられ門柱照明器具は修理を行いながら、それ以外は手を付けずにお茶の水女子大学の保存建造物(歴史的建造物)として維持管理をしてきました。

今回、大学本館、大学講堂、附属幼稚園園舎の登録有形文化財建造物の保存改修に続いて、残る大学正門の復元として、建設当時の門扉意匠及び道路歩道側の車止め設置の復元を行いました。

これを記念して、文化庁・山崎秀保文化財部長、文部科学省高等教育局・小山竜司国立大学法人支援課長、生涯学習政策局・氷見谷



除幕後の様子

直紀政策課長などの来賓を迎え、室伏きみ子学長をはじめとする大学及び附属学校関係者の出席のもと、正門にて式典が開催され、終始和やかな雰囲気の中で進められました。

仏 ストラスブール大学との大学間協定15周年を記念してワークショップを開催しました

2017年9月21日～22日、お茶の水女子大学とストラスブール大学の大学間協定15周年を記念し、ストラスブール大学において記念ワークショップ「15th Anniversary Unistra-Ochadai Workshop, How can Education and Research contribute to Human Life Innovation?」が開催されました。

開会挨拶の後に、2016年に「分子マシンの設計と合成」でノーベル化学賞を受賞されたストラスブール大学の Jean-Pierre Savage

名誉教授の基調講演が行われました。

その後、「女性研究者の社会への貢献について」のセッションでは、室伏きみ子学長が日本の状況、本学の女性研究者支援の取り組み、これまでのストラスブール大学をはじめとする海外での本学研究者の活躍の紹介等についての講演を行いました。「大学の国際化」のセッションでは、佐々木泰子副学長が政府の取り組み、本学の国際交流の状況やグローバルに活躍するセンター等の紹介の講演を行い

お茶の水女子大学と国立精神・神経医療研究センターが 「連携・協力に関する協定」を締結しました

お茶の水女子大学と国立精神・神経医療研究センターは7月31日(月)に相互に協力可能な分野において、それぞれの研究及び人材育成に関する具体的な連携・協力を効果的に推進することにより、わが国の精神保健研究に寄与するとともに、次世代の優秀な女性人材の育成を協力して行うことを目的とした連携・協力協定を締結しました。

今後は、大学院ライフサイエンス専攻遺伝カウンセリングコース設置以来行っている遺伝カウンセラー養成のための実習や研究に加え、人間発達教育科学研究所と国立精神・神経医療研究センター児童・思春期精神保健研究部との連携による発達障害児の長期追跡研究等、広くさまざまな分野での連携を促進する予定です。

また、お茶の水女子大学は以下の地域や企業と協定を締結しました。それぞれの機関の特徴や強みを共有し、教育研究を通じて社会貢献活動も進めてまいります。



国立精神・神経医療研究センターとの協定締結式

- 6月28日：株式会社リバネス(L-RADに関する積極利用に向けた協定)
- 7月12日：東京都北区(連携・協力に関する包括協定)
- 7月20日：埼玉県川口市教育委員会(連携・協力に関する協定)
- 7月31日：国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター(連携・協力に関する協定)
- 9月6日：熊本県甲佐町教育委員会及び益城町教育委員会(相互協力に関する協定)

AO入試「新フンボルト入試」プレゼミナールを開催しました

「新フンボルト入試」本格導入後2回目となるプレゼミナールを2017年9月23日(土)・24日(日)に実施しました。2日間にわたって開催し、受験生192名を含め2日間でのべ524人の方々に参加していただきました。

このプレゼミナールは、受講者をAO入試の受験生だけに限定するのではなく、広く高校2・3年生にも開放して行う点に大きな特徴のひとつがあり、受講生にお茶大の校風や大学という知的世界を実地に体感してもらえる機会を提供するものとなっています。

プレゼミナール1日目は、朝がた降っていた雨も開始時刻にはあがり、文系諸分野から5つのセミナー、理系からは8つのセミナー



セミナー(理系)の様子

を開講し、担当の教員がそれぞれ入念な準備をして熱の入った授業を高校生に対して行いました。1日目のセミナー受講者は382名のほります。

2日目は、天候にも恵まれ、受験生以外の高校2・3年生を対象とした図書館情報検索演習を午前と午後それぞれ開講し、また、理学部生物学科では大学院生による研究ポスター発表・自主研究課題相談会を開催し、高校教員8名を含め約142名が参加しました。

従来入試では、大学が受験生を一方的に選ぶだけのもの、受験生にとっては合否がすべて、という性格が強かったと思います。それに対して、この新型AO入試は、(誤解を怖れずに言えば)「合否にかかわらず」何かを得られる入試、参加した高校生に大学での学びとはどういうものであるかを垣間見てもらい、その上でぜひお茶大で学びたいと強く思ってもらえる入試にしたいと考えています。来年以降も、この一風変わった入試に意欲的な高校生がチャレンジしてくれることを願っています。



全体説明会の様子

ました。さらに加藤美砂子副学長、小玉亮子教授、後藤真里特任准教授の3名が専門分野の講演を行いました。

2日間に渡る様々な議論や懇談を通して、2大学の交流をさらに活発に、深化させていくことを約束しました。



室伏学長による講演

キャンパス点描



写真：写真部ほか

お茶の水女子大学学报 第 254 号

▽発行日：2017 年 11 月 7 日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報企画担当

電話：03-5978-5105

FAX：03-5978-5545

E-mail：info@cc.ocha.ac.jp

URL：http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学报「GAZETTE」は、
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。